

深谷市大会実施要綱

平成20年3月1日 制定

◎競技運営に関する注意事項

- 1 代表会議で説明または決められた事項は、チーム全員に徹底させること。
- 2 選手登録表提出後、同一大会期間中は、選手の変更・追加・背番号の変更は認めない。同一年度内で選手の他のチームへの移動は認めない。
- 3 ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
- 4 メンバー表の提出時については、第1試合は試合開始予定時刻の20分前、第2試合以降は、前の試合の5回終了時に、監督は3通の打順表に出場メンバーを記入して本部に提出して登録名簿との照合を受けること。その際、両チームの主将により攻守の決定を行う。
- 5 試合開始予定時刻前でも、前の試合が終了した後、試合を早く始める事もある。
- 6 試合開始予定時刻になっても会場に来ないチームは、原則として棄権とみなす。
- 7 シートノックはなしで試合を開始する。
- 8 球場内でのフリーバッティングは認めない。トスバッティングは、第1ゲームのみ外野グラウンドで行うこと。
- 9 ベンチの中で携帯マイク、携帯電話の使用は禁止する。ただし、メガホンは監督に限り使用を認める。（1個に限る）
- 10 ベンチに入れる人員
 - ① チーム責任者1名、マネージャー1名、スコアラー1名の3名以内、なお、責任者、またはスコアラーが女性の場合は、スポーツ行事にふさわしい服装をしてベンチに入ること。登録以外の方はベンチ入り禁止。（事故防止）
 - ② 登録され、ユニフォームを着用した監督・コーチ・選手とする。（0番～30番までとする）
- 11 試合中の禁止事項
 - ① バットの素振り「リング」「鉄パイプ」等危険と思われるものを球場内に持ち込むことを禁止する。
 - ② 投手が手首に白色リストバンド（サポーター等）を使用することを禁止する。負傷等で手首に包帯などを巻くときは、試合前に審判員の承認が必要である。

- ③ 足を高く上げてスライディングすることは、危険防止のため禁ずることとし、現実にこれが妨害になったと審判員が認めた場合は、守備妨害で走者をアウトにする。

- ④ 空タッチを禁ずることし、現実には走者が進塁のとき、野手が空タッチして走者の妨害（よろめいたり、甚だしく速度が鈍った場合）となったと審判員が認めたときは、オブストラクションB項を適用する。
- ⑤ プレーヤーが塁上に腰を下ろすことを禁ずる。
- ⑥ 守備側からの「タイム」で試合が停止されたときは、その間、投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
- ⑦ プレーヤー、審判員に対する個人攻撃を厳禁する。
- ⑧ 審判員の指示に従わない場合、再度注意を与えても聞かない場合は退場させる。（処分）

※ペナルティ ○ 該当選手…追って指示があるまで出場停止
 ○ 該当チーム…役員会で処理

12 試合のスピード化に関する事項

- （1）投手の準備投球について
 1回目と投手交代のときは、7球以内（1分間以内）とするが、2回目以降の投手の準備投球は3球までとする。
- （2）攻守交代は、駆け足で行うこと。ただし、投手に限り内野地域内は歩いても差し支えない。
- （3）投手と捕手について
 - ① 投手が捕手のサインを見るときは、必ず投手板について見ることに。
 - ② 投球を受けた捕手は、すみやかに投手に返球すること。
 - ③ 捕手の返球を受けた投手は、すみやかに投手板につき投球姿勢をとること。

 投手は（塁に走者がいない場合）12秒以内に投球をしなければならない。規則に違反した場合はボールを宣告する。
 - ④ あまりインターバルが長かったり、無用な牽制が度を過ぎると注意を与えることもある。
- （4）打者について
 - ① 打者は、投手が投球位置にいる、いないに関係なく、すみやかに打者席に入ること。
 - ② 次打者は、必ず次打者席へ低い姿勢で入ること。投手も必ず実行すること。
 - ③ 打者は、思うままにバッターボックスを出入りする自由は許されない。

- a 打者がみだりにバッターボックスをはずした場合は、球審はタイムをかけずに、「ストライク」を宣告する。

- b 打者は、打者席内でサインを見ること（打者が正規に打撃姿勢をとらなければ、投手は打者に投球しない）

（５） 内野手の転送球について

試合中の“ボール回し”は、初回（表・裏）の初めに捕手が塁へ送球したときだけとし、それ以降は認めない。尚、天候状態、試合の状況によっては、審判員の判断で全面的に禁止する場合もある。

（６） タイムについて

- ① 監督、主将はタイムを要求しないまま、みだりにベンチを出てはならない。
- ② タイムの制限
 - a 試合中にスパイクの紐を意図的に結び直すためのタイムは認めない。
 - b タイムは1分間を限度とする。ただし、審判員が認めた場合はこの限りではない。（7回戦3回、9回戦は4回まで）
 - c タイムは、プレーヤー（監督・主将を含む）の要求したときではなく審判員が認めたときである。打者がタイムを要求するときは、投手が投球の構えに入る前でなければならない。また、打者は、投球動作に入ったら打者席を出てはならない。

13 攻守交代のときは、守備側は、必ずボールを投手板上かその近くに置いてくこと。

14 ファールボールの球の処理について

- ① ベンチ側に飛んだものは、ベンチサイドで拾い球審に手渡す。
- ② 捕手の後方に飛んだものは、攻撃側で拾い球審に手渡すこと。

15 小雨の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な場合は、試合を実施する。

16 雨天の際の連絡は、チームより積極的に問い合わせること。なお、決定時刻は原則として午前8時00分とする。第1ゲームのチームは、グラウンドにて確認する。

連絡先 大会組み合わせ表参照

※ 棄権したチームの扱い…代表者は当日球場に来て、参加料を支払い報告すること。

- ① 事前の連絡
- ② 無届…次回大会出場停止

深谷市野球連盟

大会特別規則

- 1 試合は、1部9回戦、2・3部7回戦で1時間45分以降新しいイニングに入らないものとする。（但し市民大会は1時間30分とする。）
- 2 コールドゲーム
 - ① 暗黒、雨天によるコールドゲームは、5回終了時点とする。
 - ② 得点差によるコールドゲームは、5回以降7点差とする。
(1部・2部・3部とも)
- 3 延長戦は行わない。ただし、サドンデス（1死満塁、打順は継続）を1回のみ行う。それでも決しない場合は抽選とする。なお、決勝戦は、勝敗が決するまでサドンデスを継続する。（但し、市民大会はサドンデスは行わない。）
特別継続（雨天・暗黒）等の場合は、ローカルルールを適用し、5回終了していてもノーゲームとしないで継続試合とする。（時間も継続）
- 4 抗議権は、監督、主将、当該プレーヤーのうち1名とする。
- 5 試合に出ているプレーヤーの代走が認められた場合（コーティシーランナー）試合のスピード化を図るため、プレーヤーが負傷などで治療が長引くような場合は、相手チームの了解のもとに試合に出ている9人の中から、代走（打順の前位の者、ただし、投手を除く）を認めて試合を進行させる。
- 6 ヘルメットは、打者、走者、次打者及びベースコーチは必ず着用しなければならない
- 7 キャッチャーは、ヘルメット、マスク、レガース、プロテクター及びセフティーカップを着用すること。
- 8 その他
 - ※ 補助審判員…第1試合は連盟審判員が行う。第2試合以降は負けチームより2名の審判員をお願いすることもある。
 - ※ 深谷市野球連盟においては、20名以上の登録を認める。ただし、代表として県北大会以上に出場する時は、ルールどおり20名とすること。
 - ※ 二重登録はペナルティーの対象となるので注意すること。
 - ※ ユニフォームはチーム毎に統一のこと。スパイクも同系色のものとする。
 - ※ ユニフォームのズボンのすそを下げて着用することを禁止する。

深谷市野球連盟

棄権について

チームの諸事情により、やむを得ず棄権しなければならないときの取り扱いについては、下記のとおりとする。

- 1 電話での連絡は受け付けない。
- 2 棄権するチームは、予定試合会場にて球場責任者に報告すること。報告者は、チーム関係者とする。
- 3 棄権するチームは、球場責任者に参加料 3, 0 0 0 円を納付すること。
- 4 棄権するチームが無届けの場合は、次大会の出場を認めない。
- 5 棄権するチームのため試合を行えなくなったチームは、当日の参加料は徴収しない。
- 6 1 部に所属するチームの棄権については、次年度の 2 部降格への審査対象となる。

